

2024年8月29日

各位

アストモスエネルギー株式会社

災害対策へ向けた“次世代マイクロ風車” 金沢ターミナルに設置

アストモスエネルギー株式会社(本社:東京都千代田区 社長:山中 光、以下「当社」)は、次世代風力発電機の開発を行っているスタートアップ企業の株式会社チャレナジー(本社:東京都墨田区 社長:清水 敦史、以下「チャレナジー社」)の開発した次世代マイクロ風力発電機 Type A*を当社のLPガス受け入れ二次基地である金沢ターミナル(所在:石川県金沢市大野町4-3-6)に設置し、北陸臨海部域での実証を開始しました。当社は次世代マイクロ風力発電機 Type A の設置により、防災商材の取扱い拡大を目指してまいります。

当該実証では、金沢ターミナルでの立地を活かし、寒冷地、臨海部による塩害影響、日本海側特有の気象条件下での発電能力・耐久性の確認を行い、今後の風力発電需要の増加に対応するための実証試験を実施します。又、当社同様にチャレナジー社へ出資を行っているスカパーJSAT株式会社(本社:東京都港区 代表取締役 執行役員社長:米倉 英一、以下「スカパー社」)からも衛星通信 ExBird の供与を受け、次世代マイクロ風力発電機 Type A で衛星通信の稼働実証も並行して行ってまいります。

今年の能登半島地震により、全国で防災意識が高まっており、チャレナジー社の次世代マイクロ風力発電機についても独立電源として災害対策のニーズが高まっております。今回設置する次世代マイクロ風力発電機 Type A では、2.4kWhの蓄電池を備えており、発災直後から電力復旧までの2週間のライフラインを支えることを目標としております。(衛星通信用アンテナ:連続稼働100時間、スマホ充電:100台分、ポータブル電源を活用し避難所での電力利用)

又、当社の取り扱うLPガスは災害に強い分散型エネルギーとして広く知られておりますが、次世代マイクロ風力発電機による独立電源や衛星通信等とLPガス発電機を組み合わせることにより、風力発電では足りない電力を補うことで、より災害に強いエネルギー供給体制の構築を目指して参ります。

次世代マイクロ風力発電機 Type A の金沢ターミナルへの設置完了に際し、次世代マイクロ風力発電機 Type A の全国初の導入を記念して、2024年9月4日(水)に同金沢ターミナルで設置完了式典を開催いたします。

*:次世代マイクロ風力発電機 Type A について

次世代マイクロ風力発電機 Type A は寒冷地や豪雪地帯での使用に特化した耐久性の高い次世代マイクロ風力発電機です。積雪や凍結に強く、アイススロー(風車に付着した氷が回転により周囲に飛び散る事象)を起こしにくい設計が特徴となっております。垂直軸型サボニウス方式を採用しており、風向きに依存せず安定した発電が可能です。これにより、風向の変化が頻繁な寒冷地でも効率的な発電を実現しています。運用期間は 10 年を想定しています。

40m/s の強風にも耐えられる構造を持ち、-10℃までの低温環境下で稼働可能です。さらに、寒冷地のインフラ設備用に開発された特殊塗料を採用し、極寒環境にも対応できるよう設計されています。

騒音レベルは風速 5m/s 時に家庭用クーラーの駆動音(49dB)と同レベルに抑えられており、周辺環境への影響を最小限に抑えています。発電性能については、定格出力 100W(風速 12m/s 時)、最大出力 250W(風速 14.5m/s 時)を誇り、3m/s から 14.5m/s の風速範囲で発電が可能です。

【写真:次世代マイクロ風力発電機 Type A】



News Release



アストモスエネルギー株式会社

【チャレナジー社概要】

社名：株式会社チャレナジー

設立年月：2014年10月

住所：東京都墨田区横川 1-16-3 センターオブガレージ Room01

代表者：代表取締役 CEO 清水敦史

事業内容：次世代風力発電機等の開発

福島原発事故をきっかけに日本のエネルギー問題に着目し、世界的にも気象環境の厳しい日本において風力発電を普及させるべく、風向風速の変化に強い垂直軸型マグナス式風力発電機をはじめとした革新的な風力発電機を開発を行っています。

”風力発電にイノベーションを起こし、全人類に安心安全なエネルギーを供給する”

【お問い合わせ先】

アストモスエネルギー株式会社

人事総務部 進藤

TEL:050-3816-0700

以上